

# 災害時 コンテナ活用

## 上市 被災者の宿泊施設に

上市町は来月、災害時に家を失った被災者のために仮設宿泊施設の提供を受ける協定を、コンテナ製ホテルを全国展開する運営会社「デベロッパ」(千葉県市川市)などと締結する。コンテナを町内の被災地までトレーラーなどで運搬し、迅速に対応できる。中川行幸町長が7日開会した町議会本会議の提案理由で述べた。



**運営会社と 協定締結へ**  
 デベロッパは、平時にホテルとして使う客室。災害時に被災地に移動し「レスキューホテル」となるコンテナ製ホテルを、関東や東海、九州など31カ所(計1020室)を展開している。同様の災害協定を全国71市町村や国交省関東地方整備局と結んでいるが、北陸3県で協定を結ぶのは初めて。

レスキューホテルは、出勤要請から最短3日間で運用可能。2020年4月に新型コロナウイルス対応のため、長崎原のクルーズ船内に千葉、栃木県から計50室を運び入れ、医療従事者の休憩施設として利用された実績がある。

コンテナ製ホテルは1室約12平方メートル(幅2.2メートル、奥行5.0・6.0、高さ2.8)で、1.2人が宿泊できる。災害時は町の要請に基づき、同社が最大15室を指定場所にトレーラーやトラックで移動させる。臨時診察室としても利用できる。費用は町が負担する。

町は協定をニッセイテクノ(上市町和合)と結び、デベロッパが運営する客室のうち15室を栃木県で所有している。

箱格式来月18日に町役場を開く。町は、要支援者などとした避難所生活を送ることが厳しい住民に利用し

ておひきこもりを考慮している。町は6月(ふるさと月)上市町湯上町、大岩湯神子温泉(同町湯神子)とそれぞれ災害時に避難住民の宿泊施設として利用する協定を締結した。

# 移動式コンテナ型ホテル 災害時に活用で協定



栃木県から東京都へ移送されるコンテナ型ホテル  
 —2020年6月、栃木県内(デベロッパ提供)

## 来月、上市町と会社側

上市町は来月18日、移動式コンテナ型ホテルのコンテナを所有する「ニッセイテクノ(同町)」と同ホテルを運営するデベロッパ(千葉県市川市)と災害協定を結ぶ。災害時に町の要請に基づいて栃木県にあるコンテナが町の避難所近くへ移動され、要支援者の滞在場所や臨時の診察・検査室などを多様に活用して支援体制の充実を図る。自治体とホテル運営会社との同様の協定締結は北陸初となる。

町議会でも町長説明  
 中川行幸町長が報告した。ニッセイテクノは栃木県内に15台を所有しており、10月下旬に町に協定締結を申し入れた。

デベロッパは有事の避難先となるコンテナ宿泊施設「レスキューホテル」を関東圏(東京都を中心)に展開。7日現在、70自治体と、国土交通省関東地方整備局と災害協定を結んでいる。

レスキューホテルは昨年、長崎市内に停泊していたクルーズ船内で発生した新型コロナウイルス集団感染の際に「初出動」した。今年2月までに新型コロナウイルス対応で4件の移送実績があり、医療従事者の待機場所、PCR検査所などに活用された。最長3日で運用可能な仕様と居住性の良さが

自治体は医療関係者から高く評価されている。

上市町は来月、コンテナに下水道設備などのように備えをかなう。協定締結に向け詳細を詰める。移送運営費は町が負担する。宿泊施設との災害協定は3例目で、中川町長は「災害に備える支援体制の充実に今後も努めた」と述べた。

2021年(令和3年)12月8日(水曜日) 富山新聞

第3種郵便物認可